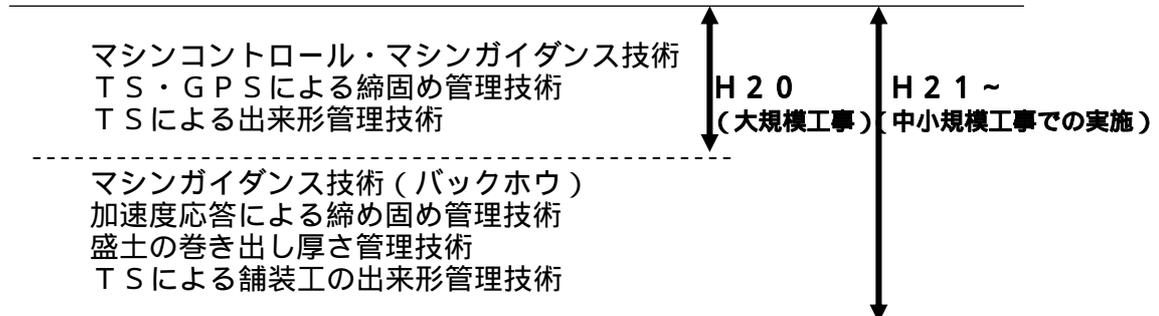


## 平成 21 年度 試験施工の実施について(案)

## 1. 検証項目とスケジュール

- ・平成 20 年度は、既に実用化・商品化している ~ の技術を比較的大規模な工事で実施
- ・平成 21 年度以降は、 ~ の技術を中小規模の工事で実施、さらに ~ 技術の検証などを実施



## 2. 試験施工を実施する工事(工種)と情報化施工技術

表 1 ~ の技術の作業のウエイトが高い工種である「道路土工」、「河川土工」および「舗装工」を含む工事が試験施工の対象とする。

表 1 試験施工を実施する工事(工種)と導入技術内容(案)

技術名	要領(案)	作業内容	使用する建設機械	河川土工(築堤・掘削工)	道路土工(路体・路床・掘削工)	路盤工	アスファルト舗装	監督検査方法
マシンコントロール/ マシンガイダンス技術	-	巻き出し 敷き均し	ブルドーザ グレーダ				-	対象外
TS・GPSによる 締め固め管理技術	1	締め固め	ローラ			-	-	施工管理 要領(案) に基づき 実施
TSによる出来形管理 技術	2	出来形計測	(TS)			-	-	
マシンガイダンス技術 3	2	掘削・成形 出来形計測	バックホウ (TS)			-	-	
加速度応答による締め 固め管理技術 4	未	締め固め	ローラ					(比較検証を実施) 従来の方法による
盛土の巻き出し厚さ管 理技術	未	出来形計測	ブルドーザ			-	-	
TSによる舗装工の出 来形管理技術	未	出来形計測	(TS)	-	-			

- 1: TS・GPSを用いた盛土の締め固め情報化施工管理要領(案)
- 2: 施工データを搭載したTSによる出来形管理要領(案)
- 3: バックホウ掘削工における情報化施工要領(試行案)に基づき実施する。
- 4: 路盤工、舗装工については、 ~ の技術の適用性も検証する。

### 3. 調査内容

#### (1) アンケート調査【請負業者及び監督検査職員】

- ・情報化施工を導入した場合の課題及びメリットの調査
- ・情報化施工管理要領（案）を用いて監督・検査を実施した場合の課題抽出
- ・情報化施工技術導入による監督検査業務の改善点を調査

#### (2) 詳細調査【請負業者】

- ・工事規模、使用機器、準備時間、作業時間などの実態調査
- ・情報化施工で使用した設計データ、施工管理データ等の収集
- ・マシンコントロール技術で施工した路盤完成後の仕上がり高さ調査
- ・新たな施工管理手法（管理要領、監督検査）の作成、確立に向けたデータ収集

### 4. 試験施工を通じた情報発信

情報化施工に対する理解の促進を図るため、発注者・施工者を対象とした見学会を現場状況に応じて開催し、情報発信を行う。

### 5. 平成21年度の試験施工対象工事

平成21年7月時点の試験施工対象工種・技術一覧を表2に示す。

表2 平成21年度試験施工対象工種・技術一覧(H21.7月末時点)

技術名	実施工種	河川土工	道路土工	舗装工 (路盤工)	構造物	ダム	計画中	計 (含計画中)	平成20年度 (参考)
	工事件数	21	19	28	8	3	(46)	79 (125)	39
マシンコントロール /マシンガイダンス技術	8	7	24	0	1	(13)	40 (53)	10	
TS・GPSによる締固め 管理技術	14	7	2	1	3	(31)	27 (58)	14	
TSによる出来形管理技 術	12	10	8	2	0	(16)	32 (48)	18	
マシンガイダンス技術 (バックホウ)	0	2	0	1	0	(3)	3 (6)	7	
加速度応答による締め 固め管理技術	0	0	0	0	0	(1)	0 (1)	0	
盛土の巻き出し厚さ管 理技術	0	1	0	0	0	(0)	1 (1)	0	
TSによる路盤工の出来 形管理技術	0	0	4	0	0	(4)	4 (8)	0	
その他(ICタグ、アスファルト 舗装温度他)	2	0	4	8	1	(1)	15 (16)	3	
計	36	27	42	12	5	(69)	122 (191)	52	

注1) 工事件数については現時点での計画であり、今後発注状況によって変わる可能性がある。  
 注2) 各技術の導入件数合計は、1工事で複数の技術を導入する場合があるため、工事件数と一致しない。